

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 030	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名： 食品製造残さの飼料利用における発酵処理の肥育牛に対する効果について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <p>畜産技術センターにおいては、県内の多数の肥育経営と同様に、食品製造残さ（トウフ粕等）を肥育牛の飼料として利用し、優れた肥育成績を収めている。県内の肥育経営と畜産技術センターとで、食品製造残さを飼料利用する際の大きな違いは、食品製造残さを混合した飼料を発酵処理しているかいないか、あるいは発酵処理期間が長いかわりで、これが出荷枝肉の品質を左右しているとも考えられる。しかしながら、何が影響しているかまでは検証されていない。</p> <p>そこで、飼料製造過程の発酵処理が肥育牛の増体にどう影響しているかについて、見解を明らかにしていただきたい。</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	大家畜グループ
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 食品残さ利用による肉用牛の低コスト生産技術の開発（平成18～23年度）		
対応の内容等	<p>当所で行った過去の試験でトウフ粕を生で給与した場合と発酵処理後に給与した場合について比較しました。発酵処理したほうが乾物摂取量は多く、出荷時体重も大きくなっていました。また、経済性においても発酵処理が優れていました。発酵処理を行うことの一歩の目的は変敗を防ぎ、安定的に給与が可能なおことですが、嗜好性もよいことから十分な乾物摂取量に寄与し、市販の配合飼料給与に比べ、より低コストで肥育できることがわかりました。肉質については発酵飼料給与との関係は分からないことも多く、今後とも情報収集に努めます。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	水宅ら（2013）トウフ粕を利用した黒毛和種肥育試験、神畜技所研報2		